



愛知学院大学歯学部同窓会愛知県支部 令和3・4年度支部長就任のご挨拶

愛知学院大学歯学部同窓会愛知県支部令和3・4年度支部長

梶村 豊彦 (16回生)

この度、16年の長きにわたって同窓会愛知県支部長としてご苦勞されました阪上隆則先生（東区班5回生）の後任として令和3・4年度支部長に就任させていただくことになりました、昭和区班16回生の梶村豊彦でございます。平成11年より12期の間、特に現支部長の阪上隆則先生が支部長にご就任されてからの12年間は、専務理事を、直近の4年間は副支部長を務めさせていただきました。阪上支部長が就任当初より掲げてこられました「会員間の親睦と学術の充実、愛知県下最大の同窓会としての責任ある人材育成」ということが同窓会活動の原点であることを普遍的であると認識し、継承してまいりたいと存じます。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の終息（収束）も見えない現在、従来のような同窓会活動がままならない状況であることも紛れもない事実であり、いわゆる新しい生活様式に則った同窓会活動を模索していかなければなりません。研修会・会議等のWeb上での開催にも少しずつ慣れてまいりましたが、それらに対応するインフラ整備にも予算を割いていかなければなりません。会員の先生方の貴重な会費を無駄にすることなく配分して、班活動を基盤とした愛知県支部の活動を維持・活性化していく必要があります。現在、会費の収支バランスは、比較的健全な状況ではありますが、若い世代からまた女性会員からの更なる役員登用等しながら、50年を超えた世代間のギャップに対応し、組織率の維持・向上を目指して愛知県支部が一つにまとまっていかなければなりません。

さて、同窓会愛知県支部では支部長・監事は選挙によってその任に当たる会員を決定することは周知のことです。しかし、過去30年以上にわたり実際に選挙になった事例はありません。私が専務理事在任中にも立候補の意思表示をされた会員がおられたのは事実でありましたが、その都度その会員から愛知県支部へのご要望を伺い、その時々々の愛知県支部の執行方針を説明させていただき、時には執行部に実際にご加入頂き、ご理解を得ながら、結果的に選挙には至らないように対話重視で行ってまいりました。

それにより、県下各班より多くの役員のご推薦をいただきながら愛知県支部執行部の成熟度を高めてこられたように感じています。会議において多くの意見が活発に出ることは非常に健全で良いことです。多くの異なった意見に耳を傾け、議論を経ていったん決定したことに 대해서는皆が一丸となって進んでいくことが望ましいと考えます。愛知県支部は、発足当初より歴代執行部により「和をもって尊し」の精神で執行されてきました。この言葉には、よく知られた「和」の心を持ってお互いが思いやりの心で接することが肝要であるとの教えと同時に、一方で「礼」による折目もないとせつかくの「和」もうまくいかないとの教えも隠れていると言われていています。これからも「和」と「礼」をもって多くの会員のための執行はどこにあるかを各班からのご意見に耳を傾けながら役員一同身を粉にして頑張ってまいります。

今まで同窓会活動とは？同窓会のあるべき姿は？というテーマで幾多の議論がなされてまいりま

した。その中で、愛知県歯科医師会会長は、渡邊正臣先生から内堀典保先生へと当会より2代連続10年に亘って輩出させていただいている現在、その執行をお支えすることも重要な同窓会活動の役目の一つであることは論を待たないところであります。言うまでもなく県歯には全国29の歯科大学・歯学部の卒業生がおられ、かつて愛知県支部は県歯で登用されるような人材育成の場であると言われてきたこともありましたが、県歯の要所に多く人材を輩出するようになってきた今、責任ある同窓会として各校同窓会・校友会愛知県組織との融和を図るべく執行していかねばなりません。その上で、各班の発展が支部の発展に、支部の発展が本部の発展につながると信じ、班・支部・本部の組織それぞれの活性化を念頭に、その役割を明確にした同窓会活動を目指し、長らくそれぞれの組織運営に尽力された方々に敬意を払っていけるような同窓会を目指してまいります。先の見通しがままならない状況ではありますが、歯科界の発展・安寧のために、同窓会愛知県支部の先生方の益々のご指導、ご協力をお願いいたしまして就任の所信表明とさせていただきます。

